

コンゴ(民)月例報告  
政治関連  
2018年10月

**主な出来事**

●10月初旬からアンゴラ当局が行った不法滞在者の取り締まり作戦に関し、16日に開催された閣議で、これまでに、20万人のコンゴ(民)人がアンゴラから強制送還され、このうち3万人が、合意を無視した乱暴な方法で扱われ、人命も失われたと報告された。

●4日、マーシャル MONUSCO 報道官は、北キブ州ゴマ市近郊のムニギ・キャンプに收容されていた744名の元 SPLM/A-IO 要員(南スーダン・マシャール派兵士)のうち、最後まで残っていた12名の出発が完了し、同キャンプは閉鎖されたと発表した。

●5日、安保理ミッションが3日間の予定でキンシャサを訪れ、6日にカビラ大統領と面談した。

●20日深夜、北キブ州ベニ市で、ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)と見られる武装勢力が攻撃を行い、少なくとも11名が殺害され、子どもを含む15名が行方不明になった。また、ベニ市の北東9キロの地点にあるマヤンゴセでは、MONUSCO と武装勢力のメンバーとおぼしき者が交戦した。

●26日、キンシャサ市では、UDPS を除く当地主要野党が、投票機器の使用取り消し及び、指紋のない選挙人登録の整理等を求めてデモ行進を呼びかけ、リメテ・インターチェンジからトリアンファル大通りまで行進を行った。

●27日、選挙のための与党プラットフォーム「FCC」が集会を開催し、会場となったタタ・ラファエル・スタジアムには、少なくとも5万人の与党支持者が集まった。

●29日、CENI は、コンゴ(民)国軍(FARDC)から、選挙資機材運搬のためのトラック150台及び航空機一式を受領した。アタマ国防大臣は、「これら機材は FARDC に所属しており、選挙後には FARDC の兵站基地に戻される」と述べた。

**1. 内政**

**(1)コンゴ(民)東部情勢に関するワーキング・グループの設置**

・1日、ミナク国民議会議長は、チバラ首相、モヴァ副首相兼内務・治安大臣をはじめとする閣僚及び東部選出の議員と意見交換を行い、治安状況が悪化している東部情勢に関するワーキング・グループの設置を決定した(2日付 Le Potentiel 紙)。

**(2)与党プラットフォーム FCC の集会**

・27日、選挙のための与党プラットフォーム「FCC(Front Commun du Congo, コンゴ統一戦線)」が集会を開催し、会場となったタタ・ラファエル・スタジアムには、少なくとも5万人の与党支持者が集まった(27日付 AFP)。

**(3)野党の動向**

**ア ルブンバシ市での野党集会の禁止**

・13日、野党がオー＝カタンガ州ルブンバシ市での開催を予定していた集会は、12日夜になりルブンバシ市長が、治安維持上の理由により延期するよう求めたため、実質的に禁止された。13日午後には、自発的に発生したデモ行進を、警察部隊が催涙ガス弾を用いて解散させた。また、キュング UNAFEC 党首の自宅への通行は一切禁止された(13日付 AFP)。

## イ プレトリアでの南ア NGO 主催のコンゴ(民)野党会議

・24日-25日、プレトリアで、南アの NGO「ITI(In Transformation Initiative)」は、コンゴ(民)の主要7野党代表等を招集して会議を行った。会議後に野党は、12月23日の選挙はボイコットせず、1月15日までに野党統一候補を指名する等のコミュニケを発出した。

## ウ 野党呼びかけのデモ行進

・26日、キンシャサ市では、UDPS を除く当地主要野党が、投票機器 (machine a voter) の使用取り消し及び、指紋のない選挙人登録の整理等を求めてデモ行進を呼びかけ、カメレ UNC 党首、ムジト「Nouvel Elan」代表等が先頭に立ち、リメテ・インターチェンジからトリアンファル大通りまで行進を行った。なお25日、カブンド UDPS 幹事長は AFP に対し、26日のデモ行進には参加しないことを決定したと明言していた。

・26日、UDPS を除く当地主要野党が呼びかけた抗議行動で、キンシャサ市の他に実施が許可された都市(ゴマ、ブカブ、ブニャ、ムバンダカ)では、多数配置された警察官が参加者を取り囲み、事故等は報告されなかった。一方で、カナンガ、ムブジマイ、キサンガニでは、抗議行動は不許可とされた。

## (4)独立国家選挙委員会(CENI)の動向

### ア 大統領選挙立候補者との意見交換会

・4日、ナンガー CENI 委員長は、CENI と大統領選挙立候補者との意見交換会を行った。  
・10日、CENI は、第2回目となる大統領選挙立候補者との意見交換会合を行った。今回は特に、投票機器と指紋のない選挙人登録について協議されたが、野党側の反発により、物別れに終わった(10日付 AFP)。

### イ 政府による選挙資金の支出

・12日、バセンゲジ CENI 副委員長は、政府が10日、選挙資金のうち56百万ドルを支出し、これまでに支出された金額の合計は300百万ドルを超えたと発表した。同副委員長はまた、20日までは、新車トラック220台、ヘリコプター5機、輸送機2機が納品されると述べた。12月23日に予定されている選挙にかかる費用は432百万ドルと見積もられている(12日付 Actualite.CD)。  
・19日、政府は機関間会議(reunion interinstitutionnelle)の席上、CENI に対する支出の72%がすでに行われ、50百万ドルが直接、資機材運搬のロジスティックに充てられたと発表した。今後さらに122百万ドルが支出される予定。

### ウ 政府からの選挙用ロジスティック機材供与

・29日、CENI は、コンゴ(民)国軍(FARDC)から、選挙資機材運搬のためのトラック及び航空機一式を受領した。同日朝、キンシャサ市の CENI 本部前には、Kamaz 社(ロシア)製の軍用トラック150台が配置され、政府当局から CENI に、鍵が引き渡された。また、キンシャサ市のンジリ空港で行われた引渡し式では、十数機の航空機及びヘリコプターが CENI に引き渡された。アタマ国防大臣は、「これら機材は FARDC に所属しており、選挙後には FARDC の兵站基地に戻される」と述べた(29日付 AFP)。

### エ 選挙プロセス広報のためのラジオ局開局

・31日、CENI は、選挙プロセス広報のためのラジオ局を開局した。周波数は FM107.7 で、午前4時半から深夜0時まで放送される。

## 2. 外交

### (1)カビラ大統領とシスル南ア国際関係・協力大臣の会談

・16日、カビラ大統領は南アのシスル国際関係・協力大臣と会談を行った。同大臣は、第11回コ

ンゴ(民)・南ア上級合同委員会閣僚会議のため、15日-16日とキンシャサを訪れていた。同時に予定されていた首脳会談は、ラマポーザ南ア大統領が来訪せず、行われなかった(16日付 ACP)。

#### (2)カビラ大統領とクテサ・ウガンダ外相の会談

・18日、カビラ大統領は、ムセヴェニ・ウガンダ大統領の親書を携えたクテサ外相と会談した。

#### (3)カビラ大統領とリビシ・ギニア・エネルギー大臣の会談

・23日、カビラ大統領は、コンデ・ギニア大統領の親書を携えたりビシ・エネルギー大臣と会談した。

### 3. 東部及び大湖地域情勢

#### (1)北キブ州ベニ地区

- ・2日、ベニ地区で、マイマイ(自警団的な性格をもった武装集団)がカルルマの FARDC 陣地を襲撃し、マイマイ側に4名の死者が発生した(2日付 AFP)。
- ・20日深夜、北キブ州ベニ市で、ADF(民主同盟軍、ウガンダ系反政府武装勢力)と見られる武装勢力が攻撃を行い、少なくとも11名が殺害され、子どもを含む15名が行方不明になった。また、これに先立ち、ベニ市の北東9キロの地点にあるマヤンゴセ(Mayangose)で銃声が聞こえたため、MONUSCO は直ちに現場に早期展開部隊を派遣し、武装勢力のメンバーとおぼしき者と交戦した。MONUSCO 側に負傷者等は発生していない(21日付 AFP)。
- ・21日、この状況に怒ったベニ市の住民は、犠牲者3名の遺体を掲げて抗議を行い、また、別の住民は、郵便局及び市役所の建物に放火するなどした(21日付 AFP)。

#### (2)北キブ州その他地域

・7日、マシシ地区ルバヤ村(ゴマ市の北60キロ)の地区長は AFP に対し、銃を持った集団の襲撃により、14名の住民が殺害され、9名が負傷したと伝えた。ルバヤ村はコルタン(鉱物資源)の産出地である(7日付 AFP)。

#### (3)イツリ州

・5日、コンゴ(民)国軍(FARDCC)関係者は、9月18日以降、イツリ州ジューグ地区で FARDC が行った対武装勢力作戦により、30名の民兵が殺害され、FARDCC2名も死亡したと発表した(5日付 AFP)。

### 4. その他地域情勢

#### アンゴラに不法滞在するコンゴ(民)人のコンゴ(民)への帰国及び強制送還

- ・8日、コンゴ(民)とアンゴラ双方の情報筋は、3日以降、アンゴラ当局がコンゴ(民)と国境を接するルンダ・ノルテ州で行った、ダイヤモンドの取引所を中心とする不法滞在者の取り締まり作戦により、多数のコンゴ(民)人が死亡したと伝えた。一方、アンゴラ当局によると、同取り締まりを受け、ここ数日で約5万人のコンゴ(民)人が自国に戻った(9日付 AFP)。
- ・15日、アンゴラ当局による取り締まり作戦により、これまでに約20万人のコンゴ(民)人がコンゴ(民)側に越境している事態を受け、コンゴ(民)政府は、モヴァ副首相兼内務・治安大臣を、同事件に関する調査責任者に任命した。
- ・16日に開催された閣議の報告書でコンゴ(民)政府は、20万人のコンゴ(民)人がアンゴラから強制送還され、このうち3万人が、合意を無視した乱暴な方法で扱われ、人命も失われていると述べた。同報告書によると、「不規則移住者の国外追放を行う場合には、受け入れ国に対し、事前通報する」という義務を果たしていないとして、アンゴラ政府に対し憤りと抗議の意を表明すること

が決定された(16日付 AFP)。

・17日、シェ・オキトウンドゥ副首相兼外務・地域統合大臣は記者会見を行い、本件に関しアンゴラ大使を召還したが、大使は現在キンシャサを不在にしているため、公式ルートを通じて口上書を送付したと述べた。また、アンゴラ政府が適切に解決しない場合は、所轄の国際機関に付託せざるを得ないこととなるとアンゴラ側に伝えたと発表した。

・20日、不法滞在者の取り締まり作戦の責任者であるセバスチャン・アンゴラ国務大臣兼武官長はルンダ・ノルテ州を訪れ、今月から開始した取り締まり作戦により、そのほとんどがコンゴ(民)人である38万人の不法滞在者がアンゴラから退去し、総価格百万ドル以上のダイヤモンドが押収されたと述べた(21日付 AFP)。

## 5. その他

### (1) 安保理ミッションのコンゴ(民)訪問

・5日、安保理ミッションが3日間の予定でキンシャサを訪れ、6日にカビラ大統領と面談した。

### (2) 元 SPLM/A-IO 要員全員のコンゴ(民)からの出発

・4日、マーシャル MONUSCO 報道官は、北キブ州ゴマ市近郊のムニギ・キャンプに収容されていた744名の元 SPLM/A-IO 要員(南スーダン・マシャル派兵士)のうち、最後まで残っていた12名の出発が完了し、同キャンプは閉鎖されたと発表した(4日付 AFP)。

### (3) コンゴ(民)人初のノーベル賞受賞者

・5日、南キブ州パンジ病院長のドウニ・ムクウェゲ医師のノーベル平和賞受賞が決定した。

### (4) インド系製薬会社の幹部2名の逮捕

・19日、コンゴ(民)で1998年から操業するインド系製薬会社 Zenufa の幹部2名が、キニーネ(マラリア特効薬)の偽造の疑いで逮捕された。なお、24日、司法当局は、同幹部が保釈金を支払ったため、釈放した(25日付 AFP)。

### (5) 大統領選挙に関する世論調査ーフェリックス・チセケディ UDPS 党首がトップ

・30日、Jason Stearns 氏がディレクターを務める研究プロジェクト「Groupe d' Etude sur le Congo (コンゴ(民)に関する研究グループ, GEC)」と調査会社 BERCI は、コンゴ(民)の選挙に関する世論調査シリーズの最新版を発表した。毎行われている「次の日曜日に大統領選挙が行われたら誰に投票するか」との設問では、今回、1位は「フェ」UDPS 党首の36%、2位はカメレ UNC 党首の17%、3位は与党候補のラマザニ・シャダリ PPRD 常任書記の16%との結果が示された(11月1日、FCC 報道官のカバンゲ国土整備・都市改修大臣は、同調査結果が操作されていると非難した)。